

2022 AUTOBACS SUPER GT Round.2

All Photographs by Noriaki MITSUHASHI, N-RAK PHOTO AGENCY

FUJI



2022 AUTOBACS SUPER GT 第2戦 FAV HOTEL FUJI GT 450km RACE

2022年5月3日（火・祝）～4日（水・祝）
富士スピードウェイ（静岡県）

公式練習

5月3日（火・祝） 天候：晴れ 路面：ドライ

第1戦岡山では終盤まではまさにパーフェクトと呼べるレース運びで逃げ切りを果たし、SUPER GTで2年連続の開幕戦勝利を飾ったTGR TEAM ENEOS ROOKIE。第2戦の舞台は、チームのお膝元でもある静岡県の富士スピードウェイだ。

2021年には開幕優勝に続き2位表彰台を獲得し、チャンピオンシップを大きくリードした。ただ僅差のGT500クラスで、第1戦の結果にともなうサクセスウエイトもありその再現は簡単ではない。しかし大嶋和也と山下健太はその再現、そしてそれ以上の結果とも言える2連勝を目指し富士スピードウェイに乗り込んだ。

今回の第2戦は、ゴールデンウィークの一戦ともあり毎年大きな賑わいを見せるレース。一方で今季は、新たな要素もある。レース距離が450kmに

設定されたのだ。これまでのSUPER GTにはなかったレース距離で、かつ2回のピットストップが課せられている。戦略面が非常に重要となった。

そんなレースに向け、5月2日（月）に小雨舞うなか準備を進めたTGR TEAM ENEOS ROOKIEは、5月3日（火・祝）午前9時からの公式練習に臨んだ。爽やかに晴れ渡り、多くのファンがスタンドを埋めるなか、ENEOS X PRIME GR Supraは山下がステアリングを握りコースイン。チェックの後、いきなり14周のロングランをこなすと一度ピットへ。さらに8周を走り大嶋に交代する。大嶋もすぐにロングランをこなしていくと、終盤の専有走行の時間帯には山下に再度交代。午後の公式予選に向けたシミュレーションを行っていった。

山下はアウトラップから4周目、1

分27秒554というベストタイムをマークする。結果はトップから0.341秒差の8番手。事前の予想どおり上位は僅差で、大嶋、山下ともに ENEOS X PRIME GR Supra に対して抱いた

フィーリングは悪くない。長丁場のレース距離とは言え、展開を有利に運ぶためにはグリッドも重要だ。午後の公式予選に向けて十分な手ごたえを得て、公式練習を締めくくった。



公式予選

5月3日（火・祝） 天候：晴れ 路面：ドライ



岡山では大嶋の会心のアタックでポールポジションを獲得し喜びに包まれたが、サクセスウエイトも積んでいる今回の第2戦では、そう簡単にはいかない。しかしそれでも、決勝レースでの好結果に向けてひとつの前のグリッドを得るべく、ENEOS X PRIME GR Supraの予選Q1を担当した山下は、午後3時33分のコースオープンとともに、念入りにタイヤをウォームアップさせていった。

山下は6周目、一気にタイムを上げ1分26秒810というタイムをマークする。しかし、ライバルたちも続々とタイムを上げていくと、終わって

みれば9番手。予選Q2進出に必要な8番手まで0.041秒届かず、無念のQ1敗退となってしまった。今回のGT500クラスのタイム差は超僅差。Q2まではほんのわずかだったのだ。

山下は予選後、「もう少し頑張ればいけたのかもしれないので悔しいですが……」と無念さを露わにした。ただ大嶋は、「昨日から決勝に向けてセットを合わせてきた。自信をもっていけばいい」と山下をかばった。大嶋の言うとおり、大事なのは決勝だ。豊田大輔オーナー代行も「レースではアベレージで勝負しましょう」とチームを奮い立たせた。

決勝レース

5月4日（水・祝） 天候：晴れ 路面：ドライ

4万4000人というひさびさの大観衆を集め、爽やかな青空のもと迎えた5月4日（水・祝）の決勝日。TGR TEAM ENEOS ROOKIEは、予選の悔しさを晴らすべく追い上げを期する決勝レースに臨んだ。

午後2時30分に迎えたスタートで、ENEOS X PRIME GR Supraのスタートドライバーを務めたのは大嶋。スタート直後に下位でアクシデントが発生するなど、序盤からGT500は荒れ模様。そんななか、大嶋は11番手につけ混戦の上位陣を追った。

ENEOS X PRIME GR Supraのコクピットで、大嶋は前日に続きフィーリングの良さを感じていた。十分追い上げ可能な速さのポテンシャルはあるものの、やはり搭載している42kgのサクセスウエイトが効いているためか、なかなかオーバーテイクには至らない。大嶋は11番手をキープしたまま序盤のレースを戦っていった。

そんな状況を打開できるのは、今回

の450kmというレース距離と、2回の給油義務が課せられているなかでの作戦だ。豊田大輔オーナー代行も予選日に語っていたとおり、いかにアベレージ高くフィニッシュまでもっていきけるかが重要になる。25周を過ぎると、GT500でも少しずつピット作業を行うチームが出はじめるが、前が開けはじめると、大嶋は好フィーリングも手伝い、ペースを上げていくことができた。この展開ならば、ピット作業を遅らせるのが賢明だ。大嶋は37周までコースに留まり、3番手までポジションを上げた後、ENEOS X PRIME GR Supraをピットに戻した。

チームは大嶋の好走に応えるようにスピーディーなピット作業を行う。代わってステアリングを握った山下健太は追撃を始めるが、43周目、アドバン・コーナーの進入でGT300クラス車両が激しくクラッシュ。フルコースイエローが導入され、すぐにセーフティカーランに変更されることになった。

このアクシデントによるセーフティカーランはしばらく続くことになるが、タイヤバリアの修復のために重機の導入が必要と判断し、レースは午後4時01分、48周で赤旗中断となる。オフィシャルによる迅速な修復後、午後4時25分にレースはセーフティカーランで再開されることになった。



セーフティカーは52周に退去し、戦いの火ぶたがふたたび切って落とされるが、GT500では激しい争いが展開される。そんななか59周を迎えようかというタイミングで、トップ争いのなかで#3 Z GT500がストレート上で激しくクラッシュしてしまう。直後につけていた山下はコースに飛散したパーツを避けようとスローダウンを試みるが、すぐ背後にいた#24 Z GT500がENEOS X PRIME GR Supraのリアにヒットしてしまった。大きなアクシデントのなかで仕方がないところだったが、これでENEOS X PRIME GR Supraはリアハッチなど、カウルを破損してしまった。

レースは即座に赤旗中断となったが、ドライバーの高星明誠選手の無事が確認され、ライバルとは言えTGR TEAM ENEOS ROOKIEも全員がホッと胸をなで下ろした。ただガードレールが大きく破損し、この補修に時間を要した結果、レースの最大延長時間が近づいてしまった。午後6時20分、レースはセーフティカーのまま終了し、山下はカウルを破損したまま9位でチェッカーを受けた。しかし、SC中に上位2台がペナルティを受け、ENEOS X PRIME GR Supraの順位は7位に。規定の70パーセントを消化していないことからハーフポイントとなったが、貴重な2点を加算した。



ドライバー／監督コメント



DRIVER **大嶋 和也** Kazuya OSHIMA

「クルマのフィーリングも悪いわけではありませんでしたが、集団で走っていた状態ではサクセスウエイトが響き、なかなか混戦から抜け出せないレース展開になってしまいました。前がクリアになったときには良いペースで走れていたのですが、ハンドの厳しさを感じましたね。そんななかでもポイントは獲得しなければならないので、最終的に7位に入ることができたのは良かったです。大きなアクシデントの影響で僕たちのクルマもダメージを受けていたので、そんななかでチェッカーを受けることができたのは良かったですね。この厳しい状況のなかでもポイントは獲り続ける必要があるので、次戦の鈴鹿に向けてクルマをさらに良くできるように、引き続き頑張っていきたいと思います」



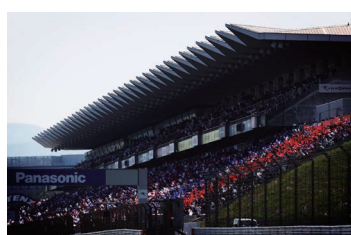
DRIVER **山下 健太** Kenta YAMASHITA

「荒れたレースでしたが、ポイントを獲ることができて本当に良かったです。公式予選では、結果的にほんのわずかな差でQ2進出を逃してしまったので、自分がなんとかできたのかもしれませんが、仕方ないですね。でも、ああいう時にもちゃんとQ2に進出できるような走りを今後していきたいです。決勝では、僕のスティントではクルマのバランスがあまり良くなく、ペースを上げられなかったのが、そこは次戦に向けて反省点です。レース終盤、アクシデントの際にうしろのクルマにスリップにつかわれていたので、前が見えていなかったのだと思いますが、僕がアクセルをゆるめたタイミングで接触してしまいました。クルマが壊れてしまいましたが、走りきろうと臨んでいきました。結果的にそれが繋がり、ポイントが獲れたのは良かったです」



DIRECTOR **高木 虎之介** Toranosuke TAKAGI

「しぶとく戦い続けて、最終的には7位でポイントを獲ることができたのは本当に良かったです。レース前には『荒れたレースになるのでは』とは思ってはいましたが、これほど荒れるとは思っていませんでした。我々のクルマもダメージを受けてしまいましたが、そんななかでチェッカーを受けることができ、なんとか最後までレースを終えることができて本当に良かったです。『乗り切ったな』というのが実感ですね。次戦は鈴鹿になりますが、ポイントリーダーのまま挑むことができます。昨年は第2戦以降ずっとポイントを獲ることができなかったのが、次戦も取りこぼさないようにしぶとく挑んでいきたいです。今回はタイヤ交換も速かったですし、状況に満足せず、これからも戦っていききたいですね」



SUPER GT 第2戦 富士スピードウェイ リザルト

5月3日 公式練習 (GT500)

Pos.	No.	Car	Driver	Tire	Time
1	37	KeePer TOM'S GR Supra	S. フェネストラズ／宮田莉朋	BS	1'27.213
2	8	ARTA NSX-GT	野尻智紀／福住仁嶺	BS	1'27.282
3	36	au TOM'S GR Supra	坪井翔／G. アレジ	BS	1'27.284
4	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	関口雄飛／中山雄一	BS	1'27.389
5	12	カルソニック IMPUL Z	平峰一貴／B. バゲット	BS	1'27.428
6	23	MOTUL AUTTECH Z	松田次生／R. クインタレッリ	MI	1'27.472
7	3	CRAFTSPORTS MOTUL Z	千代勝正／高星明誠	MI	1'27.513
8	14	ENEOS X PRIME GR Supra	大嶋和也／山下健太	BS	1'27.554
9	24	リアライズコーポレーション ADVAN Z	佐々木大樹／平手晃平	YH	1'27.570
10	19	WedsSport ADVAN GR Supra	国本雄資／阪口晴南	YH	1'27.750
11	38	ZENT CERUMO GR Supra	立川祐路／石浦宏明	BS	1'27.838
12	17	Astemo NSX-GT	塚越広大／松下信治	BS	1'27.860
13	16	Red Bull MOTUL MUGEN NSX-GT	笹原右京／大湯都史樹	DL	1'28.041
14	100	STANLEY NSX-GT	山本尚貴／牧野任祐	BS	1'28.057
15	64	Modulo NSX-GT	伊沢拓也／大津弘樹	DL	1'29.576

5月3日 公式予選 (GT500)

Pos.	No.	Car	Driver	Tyre	Time
1	19	WedsSport ADVAN GR Supra	国本雄資／阪口晴南	YH	1'26.137
2	24	リアライズコーポレーション ADVAN Z	佐々木大樹／平手晃平	YH	1'26.449
3	3	CRAFTSPORTS MOTUL Z	千代勝正／高星明誠	MI	1'26.452
4	37	KeePer TOM'S GR Supra	S. フェネストラズ／宮田莉朋	BS	1'26.548
5	8	ARTA NSX-GT	野尻智紀／福住仁嶺	BS	1'26.569
6	38	ZENT CERUMO GR Supra	立川祐路／石浦宏明	BS	1'27.053
7	100	STANLEY NSX-GT	山本尚貴／牧野任祐	BS	1'27.161
8	36	au TOM'S GR Supra	坪井翔／G. アレジ	BS	1'27.273
9	14	ENEOS X PRIME GR Supra	大嶋和也／山下健太	BS	1'26.810
10	12	カルソニック IMPUL Z	平峰一貴／B. バゲット	BS	1'26.989
11	23	MOTUL AUTTECH Z	松田次生／R. クインタレッリ	MI	1'27.090
12	16	Red Bull MOTUL MUGEN NSX-GT	笹原右京／大湯都史樹	DL	1'28.305
13	64	Modulo NSX-GT	伊沢拓也／大津弘樹	DL	1'28.853
14	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	関口雄飛／中山雄一	BS	1'29.133
15	17	Astemo NSX-GT	塚越広大／松下信治	BS	1'32.072

5月4日 決勝レース (GT500)

Pos.	No.	Car	Driver	Tire	Time/Gap
1	8	ARTA NSX-GT	野尻智紀／福住仁嶺	BS	3:45'40.807
2	36	au TOM'S GR Supra	坪井翔／G. アレジ	BS	2.57
3	12	カルソニック IMPUL Z	平峰一貴／B. バゲット	BS	3.151
4	23	MOTUL AUTTECH Z	松田次生／R. クインタレッリ	MI	3.614
5	100	STANLEY NSX-GT	山本尚貴／牧野任祐	BS	4.326
6	19	WedsSport ADVAN GR Supra	国本雄資／阪口晴南	YH	4.522
7	14	ENEOS X PRIME GR Supra	大嶋和也／山下健太	BS	4.781
8	24	リアライズコーポレーション ADVAN Z	佐々木大樹／平手晃平	YH	4.913
9	17	Astemo NSX-GT	塚越広大／松下信治	BS	5.534
10	16	Red Bull MOTUL MUGEN NSX-GT	笹原右京／大湯都史樹	DL	5.701
11	64	Modulo NSX-GT	伊沢拓也／大津弘樹	DL	6.064
12	38	ZENT CERUMO GR Supra	立川祐路／石浦宏明	BS	8.957
13	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	関口雄飛／中山雄一	BS	36.758
14	37	KeePer TOM'S GR Supra	S. フェネストラズ／宮田莉朋	BS	38.138
15	3	CRAFTSPORTS MOTUL Z	千代勝正／高星明誠	MI	4Laps

2022 AUTOBACS SUPER GT

ポイントランキング (GT500・トップ 10)

Pos	No	Driver	Total	サクセス ウエイト
1	14	大嶋和也／山下健太	23	46
2	100	山本尚貴／牧野任祐	18	36
3	23	松田次生／ロニー・クインタレッリ	15	30
4	36	坪井翔／ジュリアーノ・アレジ	12.5	25
5	8	野尻智紀／福住仁嶺	11	22
6	12	平峰一貴／ベルトラン・バゲット	9.5	19
7	38	立川祐路／石浦宏明	8	16
8	3	千代勝正／高星明誠	6	12
9	19	国本雄資／阪口晴南	3.5	7
10	39	関口雄飛／中山雄一	3	6

※サクセスウエイトについて

SUPER GT ではシリーズ創設当初から成績による性能引き下げのため、重りを積む独自のハンデシステムを使用しており、2021 年からは「サクセスウエイト」という名称となっています。

2021 年の規則では、GT500 クラスでは第1 戦から第6 戦まで獲得ポイント×2 kg を搭載しなければならず、参戦7 戦目は獲得ポイント×1 kg、参戦8 戦目は獲得ポイント×0 kg となります。

GT500 クラスでは車体の特性上、重りの搭載は50kg までで、以降はエンジンに噴射する燃料の流量を減らす＝燃料流量リストリクターの数値を減らし、パワーを下げる事が併用されます。GT500 クラスのサクセスウエイトの数値は下記のとおりです。しばしばチームやドライバーは出力ダウンの段階によって「1 リスダウン」「2 リスダウン」といった業界用語で表現します。

サクセスウエイト数値	0～50kg	51～67kg	68～84kg	85～100kg
車載ウエイト	0～50kg	34～50kg	34～50kg	35～50kg
燃料流量リストリクター	95.0kg/h	92.6kg/h	902kg/h	88.0kg/h

ROOKIE RACING

GT SUPER

ROOKIE Racing の活動は、多くの皆さまのご協力によって支えられています



AISIN



Rozetta



NSK

